

会 議 録

平成29年3月15日作成

会議の名称	平成28年度 第2回 和泉市社会教育委員会議
開催日時	平成 29 年 2 月 22 日 (水) 17:00 ~ 18:00
開催場所	和泉市市役所3階 委員会室
出席者	社会教育委員名簿のとおり (8名出席)
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育長挨拶 2. 議案 平成29年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について 3. 報告 平成28年度社会教育委員事業報告について 平成28年度生涯学習部事業報告について 4. その他
会議の主旨	社会教育委員は、社会教育法第17条の規定に基づき、社会教育に関する諸計画を立案し、教育委員会の諮問に応じて意見を述べるため、定時又は臨時に会議を開催する。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（次回会議出席者の確認を得ている）
その他の必要事項	

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（司会進行：事務局）

事務局より会議開催についての説明

本会議は公開することとなっているが、本日の会議は傍聴希望者がいないことを報告。携帯電話をお持ちの方は、地震発生の際、緊急地震速報を受信する可能性があるため、電源は切らずに、マナーモードにすることを依頼。

1. 教育長挨拶

（教育長）教育長の藤原でございます。本日はご多忙中にも関わらず、本会議にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。平素は、本市教育行政はもとより市制各般におきましても、多大なるご理解、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、先週の日曜日に弥生の風ホールにて光明台北小学校のコーラス部の定期演奏会がありまして、そこでは「一人一人が自立した、集団を支える人となること」という教育目標を掲げられていました。これは社会教育や生涯学習の一つ上の段階に進んだものであり、教育委員会は皆様のご意見に基づき、こういったプロセスを重視した生涯学習を進めていかなければいけないと改めて感じました。

今年度、いずみ市民大学を開学いたしまして、52名の方が入学され29名の方が第1期生として卒業されました。今後は、生涯学習のための組織づくりから、生涯学習によるまちづくりを進めていかなければいけないと思っておりますので、皆様方のご支援ご協力をよろしく願います。

簡単ではございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

事務局より出席委員数の確認

委員総数9名のうち、出席委員7名となっており、本会議は成立していること報告。

2. 議案

平成29年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について

事務局から資料に基づき説明。

（事務局）社会教育法第13条では、「地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。」と規定しています。

現在、生涯学習部の社会教育団体として運営されておりますのは、和泉市文化協会、和泉市青少年指導員協議会、和泉市こども会育成連絡協議会、和泉市PTA協議会、和泉市こども会リーダークラブ、の5団体でございます。

つきましては、平成29年度予算としまして、5団体に対して、補助金交付を予定しており、生涯学習部といたしましては、各種社会教育団体の皆様方の自主的な活動を支援させていただくため、必要な経費であることは十分認識しており、結果、同案となったものでございます。

なお、正式な予算の決定につきましては、3月議会の承認後となりますので、あらかじめご了承賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。以上でございます。

（上西委員）私は文化協会から本会議に出席しているのですが、他の団体と比較するとかなりの金額をいただいている。金額に見合った活動をしないといけないなと感じました。

（事務局）和泉市文化協会の補助金は主に施設使用料であり、他の団体はそういった施設使用料がさほど多くございません。過去には施設使用料が減免されていた時代がありましたが、その減免制度がなくなり、現在は補助金として支出しているものです。

（駒澤委員）文化協会は団体数も多く、他の団体と比べると多くなるのは仕方ない。

（議長）補助金をいただいている団体は、その金額に見合った活動をしていただきたいと思いますね。

（金谷委員）各団体予算額と内示額が記載されているが、こども会リーダークラブは内示額が10万円ほど多いですが、これでよいのか。

(事務局) 上の欄に記載しているのは平成28年度の予算額で、下の欄に記載しているのは平成29年度の内示額です。こども会リーダークラブの内示額が10万円多い理由としては、平成29年度に団体設立20年の年であるため記念事業をしたいと相談がありました。市財政課と協議したところ、通常補助金とは別に臨時的補助金として認められたものです。したがって、通常の補助金は平成28年度と同額であり、平成30年度は除かれるものであります。

3. 報告

平成28年度社会教育委員事業報告について

出席委員(上西委員)から報告。

(上西委員) 9月9日金曜日に近畿地区社会教育研究大会滋賀大会がありました。参加委員は岩田議長・大場副議長・駒澤委員・金谷委員・上西で、場所は津市民会館で行われました。内容は「人と地域がつながる社会教育の役割」を研究主題とした基調講演及び分科会でした。第1部は講演会で、演題が「水郷を活かした農の里づくり」、講師は大西 實 氏。権座(ごんざ)という地域で、水郷を守り育てる会事務局長をされています。権座では水郷を通らないと農作業が出来ず、船で肥料や機材を運んでいくお話しがとても興味深かったです。権座というお酒が販売されているそうです。第2部は場所を移して各担当府県による分科会です。私達は京丹波の取り組みを聞かせてもらいました。

1月27日金曜日には平成28年度大阪府社会教育研究会議が開催され、大場副議長と上西が参加しました。場所は大阪府教育会館で、第1部では調査結果報告として「府内市町村の社会教育委員及び社会教育委員会議の現状について」という内容で大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課から報告。第2部は講演で「今、社会教育が求められていること～社会教育委員ができること～」、講師は大阪樟蔭女子大学教授萩原雅也氏でした。第3部はグループ協議で、調査結果と講演会から、参加者が気づいた社会教育委員会議の課題や今後取り組みたいことを意見交換するとともに、それぞれの市町村の社会教育委員会議で「取り組んでいること」や「議論していること」について情報交換を行いました。

1月30日月曜日には泉北・泉南地区各市町社会教育委員研修会がアプラたかいしで開催され、大場副議長と金谷委員と上西が参加しました。第1部は講演会で、「余暇の観点からの子育て」という演題で、講師は羽衣国際大学現代社会学部准教授の棚山研氏でした。第2部は施設見学で、子育てウェルカムステーション「ハグッド」を見学しました。「ハグッド」は「育み」と「グッド」を組み合わせたもので、市民公募で決定したそうです。子持ちの有配偶男性の家事・家族ケアの分担率についての資料があり、一番高いところはスウェーデンで42.7%、日本は13.3%でした。高石市は近いので、また皆さん行ってみてください。以上です。

平成28年度生涯学習部事業報告について

事務局から資料に基づき説明。

(事務局) はじめに、生涯学習課は13の事業があり、主なものを紹介します。⑧の生涯学習推進計画進行管理事業につきましては、「第2次和泉市生涯学習推進プラン」に基づき、総合的な生涯学習の場としての役割を担う、「いずみ市民大学」を平成28年度より新設。まちづくり学部と教養学部を併設し、まちづくり学部には52人の入学者が、教養学部には603人の入学者がありました。⑨の留守家庭児童会運営事業につきましては、現在45クラスで運営しており、留守家庭児童会利用児童数が1月末現在で1,529名います。さらに昨年10月からは開設時間を午後6時から午後7時までに延長し、1月末で116人の利用申請がありました。特に、大きなトラブルもなく、現在に至っております。⑭の成人式事業につきましては、昨年度から和泉シティプラザ弥生の風ホールにおいて1会場3部制にて開催をしており、対象者は2,221名で、当日の参加者数は、1718名、参加率が、77.4%と、大幅に参加率が増加した昨年度とほぼ同じ参加率でございました。生涯学習課の事業は以上でございます。

続きまして、青少年センターの事業でございます。②の青少年学習活動推進事業につきましては、体験活動推進事業として学校の長期休み期間中に小・中学生を対象に実施しているユースゼネレーションは、大変好評を頂いております。各教室・講座毎に定員を設けておりますが、ほとんどで定員を超えるため、抽選で参加者を決定しております。交流促進事業につきましては、毎週土曜日に工作、おやつ作り、昼食作りなどを行う、ふれあいサタデーを実施しております。親子ふれあい事業では野外活動において、鉄道好きの父親が参加できるようJR西日本の全面協力を得て特急

車両を借りきり向日町操車場の見学会を実施いたしました。③の青少年自主活動支援事業につきましては、委託事業者による、「人権」を学習する講座を行い、青少年の人権意識の向上と発達障がい児への関わり方の習得。また、「防災」の講座では、和泉市防災無線クラブの協力により、子どもと関わる大人の応急手当の方法等を学びました。青少年自学自習支援事業では、テスト前勉強会として富秋・信太中学校の生徒を対象に近隣高校の先生の協力を得、実施しました。④の青少年センター子育て支援事業につきましては、子ども電話相談事業（通称）チャイルドラインは、フリーダイヤルとなっており、月曜日から土曜日の午後4時から午後8時30分までの間、子どもたちがどんなことでも気軽に電話ができるようにすることで、子どもたちの心の居場所として、大きなメリットがあり、安全・安心が提供できる1つのセーフティーネットになっております。また、子育てサークル事業においても1才前後のサークルと2才以上のサークルに分けて講座を実施しており、同じ年齢の子どもを持つ参加者同士が楽しみながら情報交換ができる場となっております。青少年センターの事業は以上でございます。

続きまして、文化財振興課の事業でございます。③の市史編さん事業につきましては、和泉市の歴史第7巻近世編を編修し、市史紀要第24～26集を刊行する予定です。④の史跡整備事業につきましては、史跡池上曾根遺跡の発掘調査成果を纏めています。⑤のふるさと空間づくり事業につきましては、文化財施設や史跡公園等を利用したイベントとして、高校軽音楽フェスタ、音★楽市（おとらくいち）や、池上曾根遺跡の史跡指定40周年を記念して、池上曾根遺跡周辺をめぐる歴史ウォークを実施し、歴史的遺産の活用を図りました。また、地域に出向き、その場所の歴史を講演するいずみ歴史トークを開催しました。文化財振興課の事業は以上でございます。

続きまして、久保惣記念美術館の事業でございます。特別展・特別陳列・常設展からなる研究発表展事業を年間6期に分けて開催しております。本年度の特別展は、「響きあう美—宗達・北斎・ロートレック—」を開催しました。この特別展では、平成19年度から平成28年度にかけて、久保恒彦氏からのふるさと元気寄附金により和泉市が購入した美術品ならびに久保家からの寄贈品を、第六次久保惣コレクションとして紹介いたしました。また、より楽しく美術に親しんでもらえるよう、展示作品にちなんだテーマでの落語会や特別展コンサートを催すことにより来場者の促進を図りました。その他といたしましては、当館が所蔵する重要文化財「源氏物語手鑑」について将来にわたる作品の保全、活用のため保存修理事業を行いました。久保惣記念美術館の事業は以上でございます。

続きまして、読書振興課の事業でございます。まず①の図書館管理運営事業につきましては、公民協働推進室で所管しておりました南部リージョンセンター図書室におきまして平成28年度から教育委員会所管とし、和泉図書館・シティプラザ図書館・北部リージョンセンター図書室の2館2室について、指定管理者制度を導入し効率的でより専門性の高いサービスの提供に努めております。また、総務部人権男女参画室所管のにじのとしょかんを含めた、2館3室の連携により、全市民が身近に利用できる図書館サービスの充実に努めているところでございます。②の子どもの読書活動推進事業につきましては、子どもの読書活動推進に関する講座や児童文学作家等による講演会を実施しており、今年度は、ボランティアステップアップ講座、小学生以下の児童を対象とした講演会と中高生向けの講演会を開催する予定となっております。また、「第2次和泉市子どもの読書活動推進計画」に基づき、「和泉市子どもの読書活動推進協議会」において、進捗状況の確認や施策の方策等について検討していきます。読書振興課の事業は以上でございます。

続きまして、スポーツ振興課の事業でございます。①のスポーツ普及振興事業につきましては、市内体育施設と小・中学校体育施設開放事業により、スポーツする環境と機会の提供、スポーツ推進委員によるスポーツ指導、教室の充実、ニュースポーツの紹介などを行っております。また、世界大会、全国大会等の出場者に対してスポーツ振興奨励として、1月末現在で個人：76件、団体：11件に対して奨励を行っております。②の健康増進・体力向上事業につきましては、「ふれあいニュースポーツ教室」は、誰もが参加できるスポーツイベントとして、毎月1回、桃山学院大学の体育館で実施しており、ニュースポーツ用具の貸し出しも市民体育館でおこなっております。また、「ニュースポーツフェスタ2017」を2月26日（日）に桃山学院大学の体育館で実施いたします。地域スポーツの推進に携わるスポーツ推進委員が主体となり、未就学児からシニアの部門に分かれて、6つのニュースポーツを体験していただく予定でございます。次に「第4回キッズスポーツフェスティバル」を10月30日に光明池緑地運動場にて、秋の歩こう会と同時開催いたしました。10月の実施であったため、今回からハ

ロウィンとスポーツの融合を企画し、たくさんの子供達が参加されました。次に、「第64回信太山クロスカントリー大会」を1月8日に信太山演習場にて実施し、今大会限定となる30キロコース、タイムを競わずゲストと走るファンランなど募集し、前回大会とほぼ同数となる申込者数2,421人で、当日の参加者数は1,938人でした。例年、晴天に恵まれる大会ですが、今大会においては雨風の強い中での大会実施となり、参加者はもとより、運営側にとっても厳しいコンディションでの大会でありましたが、大きな事故、トラブルもなく60周年の記念となる大会となりました。次に、プロ野球「オリックス・バファローズ」と市民観戦デーを行い、また、プロサッカーのJリーグ「セレッソ大阪」とタッグを組み、キンチョウスタジアムでの和泉市民観戦デーを開催し、本市のスポーツを通じた交流の振興へとつながりました。③の体育施設管理運営事業につきましては、温水プール機械設備【塩素タンク移設】の改修などを行い、安全性と衛生面の充実化を図るため、各施設の営繕工事等を実施し、安全管理に努めております。④の総合スポーツセンター整備事業につきましては、整備工事が進み、野球場が7月2日に先行オープンいたしました。また、サッカー場としての機能を備えた多目的グラウンド、テニスコートにつきましては、人工芝を布設する工事のみであり、予定工期である3月末までには工事が終了する見込みです。工事終了後以降のスケジュールは、4月から5月下旬までは運営に必要な備品の納入を控えておりますが、5月27日(土)に全面オープンを予定しております。

以上、生涯学習部の事業につきましては、概ね計画どおりに実施できるものと考えております。誠に簡単でございますが、平成28年度生涯学習部事業報告とさせていただきます。

(森委員)生涯学習課の留守家庭児童会は平成27年度の夏休みから6年生まで入会が可能となり在籍児童数1,529名とあるが、全児童数に対する利用率は伸びているのか。

(事務局)利用人数が増えているので、利用率に換算しても伸びております。

(駒澤委員)池上曾根遺跡について、観光客を呼べているか。

(事務局)観光客をピンポイントで呼べる事業を展開するには至っておりません。前回の会議でご指摘いただいておりました修繕関係は、今年度より計画的に行っております。そういった点も観光客の誘致に繋がるものと考えております。

(駒澤委員)せっきくの遺跡なので、市外の方もたくさん来ていただける状態にしていきたいと思っております。

また、前回の会議でも聞いたが、スケートボードができる場所について、その後なにか進展はあるか。

(事務局)市の体育施設や公園担当部署とも協議し、他市の状況もふまえ検討してきましたが、騒音の問題が大きく、市内の公共施設としてはなかなか整備することが難しい状況であります。民間の事業者へ施設の地下などで整備できないかと相談したこともありましたが、採算が合わないといった意見があり、なかなか前には進んでおりません。

(駒澤委員)最近では自転車駐輪場でスケートボードをしているという話も聞いている。事故防止のためにも、今後も検討して欲しい。

(岩田議長)生涯学習課の成人式事業について、昨年度から参加率が増えたと聞いたが、なにか要因はあるのか。

(事務局)2年前までは2会場3部制で開催しておりましたが、昨年度から1会場3部制に変更したことにより、例年以上の周知が必要となりました。各町会の掲示板やスーパー・コンビニエンスストアなど、様々な場所にポスター掲示依頼をしたことや、成人式企画委員会によるSNSを使った周知が効果的であり、参加者数が増えたと考えております。

(岩田議長)青少年センターの子ども電話相談事業について、どんな相談内容が多いのか。

(事務局)相談内容につきましては、人間関係・勉強に関すること・いじめ・セクハラ・パワハラ・親からの暴力といったことが多いです。

(岩田議長)この41回というのはなんの数字か。

(事務局)子ども電話相談事業(チャイルドライン)は全国各地共通でフリーダイヤルにて開設されております。本市青少年センターでは毎週水曜日が担当で、午後4時から8時30分まで電話2回線で開設しており、41回はその回数であります。

(岩田議長)青少年センターで対応しているのは和泉市の子どもなのか。

(事務局)フリーダイヤルですので、全国の子どもが対象です。

(森委員) 子どもの読書活動推進事業の予算があまり執行されていないが
(事務局) 2月24日と3月1日にボランティア養成講座が、3月19日・26日には講演会を行います。資料の金額は1月末時点の執行額ですので、これから執行してまいります。

(小川委員) 青少年自学自習支援事業で、延べ18日間開催され37名の参加者は少ない。毎回信太中学校・富秋中学校の生徒にチラシを配って熱心に周知されていることは知っているが、信太中学校であれば北部リージョンセンターで開催すればたくさんの生徒が行くと思います。とてもよい事業であるので、学校の教師などと協議し、改善していくことを検討いただきたい。

(事務局) 地域の方や先生方と協議し、今後もいろいろと検討してまいります。

(岩田議長) 3回18日というのはどういった内容なのか。

(事務局) 中間テストや期末テストなどのテスト前6～8日を対象期間としております。

(駒澤委員) 青少年自主活動支援事業について、8回で66名の参加者ということは1回あたり8名程度の参加者なのか。

(事務局) 人権・防災・平和・自然環境といったタイトルになると、1講座あたり20～30名の定員を埋めるのは難しく感じている。委託先とも協議し、内容の検討を行ってまいります。

(岩田議長) 青少年向けの講座なのか。

(事務局) 対象は概ね30歳までとなっております。

(岩田議長) 市ホームページや広報などでは伝わりにくいと思う。

(事務局) 委託先と協議してまいります。

(大場副議長) 青少年相談業務が0件になっているが、必要としている人はたくさんいると思う。そういったものを必要としている人に必要な情報が伝わる方法を考えないといけない。

(事務局) 青少年センターには専門職員の配置がないため、専門機関を紹介する機関となっております。

(岩田議長) 電話による相談で、関係機関を紹介するといったことはないのか。

(事務局) 数年前に遡っても子どもから直接連絡があったのは1・2件程度です。ほとんどが保護者の方からの連絡です。

(森委員) そういった窓口は青少年センターだけなのか。子育て支援・相談となれば別の部署もあるのか。

(事務局) こども未来室にて児童虐待など子ども関係の相談を受けております。

以上

平成29年3月22日